

交通事故より深刻!? 家庭内の“温度差”が命を脅かす 室温と健康の正しい関係を学ぶ無料セミナー開催【9/7 大口町】

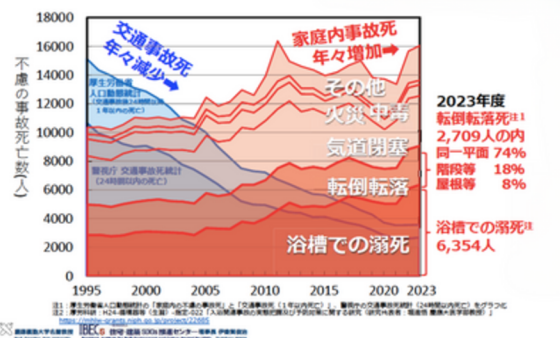
室温が寿命に影響、冬の死亡率が4割上昇する理由とは？断熱の重要性を国内トップ研究者が解説



夏の熱中症や冬のヒートショックによる死亡事故が後を絶たず、実は住宅内で起きるケースが増加しています。熱中症の38%が住宅内で発生し、家庭内でのヒートショック死は交通事故の2倍以上。そんな中、「室温」と「健康・寿命」との関係に注目が集まっています。一般社団法人 日本住宅リフォーム産業協会（ジェルコ）中部北陸支部では、こうした問題に警鐘を鳴らし、健康寿命を守る「断熱の力」について学ぶ無料セミナーを2025年9月7日(日)に大口町民会館にて開催します。

■家の中が危ない。高齢者を襲う“見えないリスク”とは

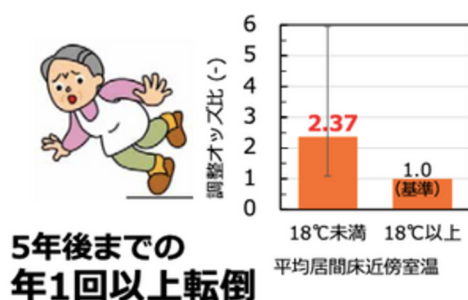
住宅内の温度差による事故は、見過ごされがちですが非常に深刻です。例えば浴槽での溺死、和室や玄関などのわずかな段差による転倒・転落も年々増加しており、段差による転倒死の約74%が“同一平面内”＝家の中で発生しています。こうした事故の背景には、寒さによる筋力・神経機能の低下、そして温度差による血圧や心臓への負担があるとされており、「家の寒さ・暑さ」が命に直結する問題となっています。



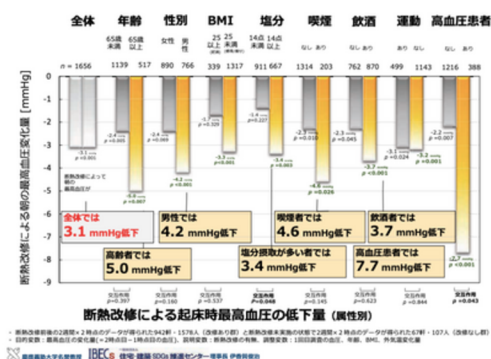
■「断熱＝健康」の根拠

住宅の断熱性能と健康状態の関連については、さまざまな調査・研究が明らかにしています

- ・室温18℃未満の家で暮らす人は、血圧・心電図・コレステロール値に悪影響
- ・室温18℃以上の住まいでは転倒事故が減少 ※グラフ1
- ・高断熱住宅に改修後、血圧が有意に低下したという報告も ※グラフ2
- ・暖かい住まいで暮らす人は、自立生活期間が平均3年長い



グラフ1



グラフ2

世界保健機関（WHO）も「室温18℃以上」を健康の国際基準と明言しており、住まいの温度管理は“快適性”の問題ではなく、“命を守るインフラ”といえる時代になっています。

https://kennet.mhlw.go.jp/tools/tools_temperature/index

■無料セミナー開催：断熱の力で命を守る住まいづくりを学ぶ90分

こうした背景を受け、一般社団法人 日本住宅リフォーム産業協会（ジェルコ）中部北陸支部では、【住まいが寿命を左右する！熱中症もヒートショックも防ぐ「断熱」の力】と題した無料セミナーを大口町民会館にて開催いたします。当日は、住まいの環境と健康・寿命の関係性を長年研究してきた慶應義塾大学 名誉教授・伊香賀俊治氏をお招きし、国内外の研究データをもとに、分かりやすく解説いただきます。

講師プロフィール：伊香賀俊治氏

慶應義塾大学名誉教授／一般財団法人 住宅・建築SDGs推進センター 理事長

健康と建築の関係性を専門に研究し、「冬季の室温と高齢者の健康リスク」や「住環境とQOL」など多くの国の研究事業を牽引。国交省・厚労省の委員も歴任。現在は「健康長寿住宅」推進の第一人者として全国で講演活動を行う。

【セミナー概要】

日時：2025年9月7日（日）10:00～11:30（受付開始 9:40～）

会場：大口町民会館 2階 町民ホール

参加費：無料（事前予約制）

主催：一般社団法人 日本住宅リフォーム産業協会（ジェルコ）中部北陸支部

後援：愛知県丹羽郡大口町

予約：WEB <https://reform-kai.com/event/250907seminar/>

電話：0587-51-0080(株式会社ラ・カーサ・江南店)

【プログラム】

1.基調講演：住まいの冬と夏の環境と健康との関係

登壇：伊香賀俊治氏（慶應義塾大学名誉教授／一般財団法人 住宅・建築SDGs推進センター 理事長）

2.命を守るひと部屋を——「ひと部屋断熱」先行実証モデルの紹介

登壇：矢島一氏（ジェルコ理事／奈良県 株式会社スペースマイン代表）

3.断熱リフォームって何するの？健康に住まうための快適への第一歩

登壇：田中博規氏（ジェルコ中部北陸支部／株式会社ラ・カーサ）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社ラ・カーサ

広報担当：川口

Email : kawaguchi@lacasa.co.jp / TEL : 080-6984-5073



la CASA

